

最新 2026 年 2 月号より抜粋

2026 年元旦団拝挙行

神奈川県知事・横浜市長に年頭の挨拶

新春聯歓会盛大に開かる

横浜華僑总会 陳宜華会長 在本会新春联欢会的讲话

赵宝钢公使 在本会新春联欢会的讲话

新成人の声

教師・家長新春聯歓会 開催

廣東同郷会新春聯歓会及び成人祝賀会開催 「陸煥鑫終身名誉會長奨学金」授与

華文教育の「新たな 100 年」を目指して 182 第 54 回教育懇親会を開催

冬令営でハルビンへ

熊貓恒例の餅つき大会 開催

横浜華僑婦女会 新年会を開催

広東要明鶴同郷会 新春聯歓懇親会を開催

小紅 おゆうぎ会 開催

要明鶴帰郷ツアーに参加して (2) 華僑総会理事 楊仕元

訃告

2026 元旦団拝挙行

2026 年の元旦を迎え、横浜華僑総会は総会二階会議室にて新年団拝を行った。団拝に先立ち陳宜華会長以下総会三役らと、新年のあいさつのためにわざわざ駆け付けた頂いた中国大使館王宝鋒一等書記官兼領事を迎え、午前 11 時に一同は中華大廈一階の建物前に参集し、華々しく爆竹が鳴らされる中、銅鑼と太鼓の軽快なリズムに合わせ横浜中華学校校友会国術団による二頭の勇壮な獅子舞いが新年の幕開けを祝った。また、この日は新装となった華僑総会事務所に初めて獅子を迎えたこともあり、伝統のしきたりにのっとり、魔よけと繁栄の願いを込めて玄関や四隅を獅子がかじるしぐさをする特別な舞いも披露された。



その後、一同は会議室に移り、朱銘江副会長が司会を務め、新年団拝が始まった。冒頭、陳会長が総会を代表し新年の年頭のあいさつをし、来賓を代表し中国大使館の王宝鋒一等書記官兼領事が広範な僑胞に向け新年の祝辞を述べた。



た。続いて、廣東要明鶴同郷会の陸佐光会長が乾杯の音頭を取り、祝杯を挙げとともに新年の到来を祝った。

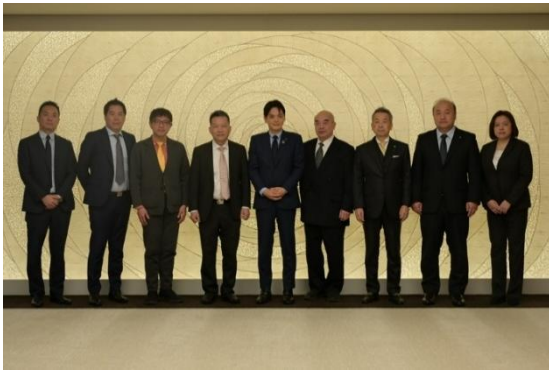
続いて、陳会長は総会役員らを伴い、参拝客でにぎわう媽祖廟と関帝廟に参詣し、会務の発展と華僑社会の安寧を祈念した。

また、京浜華厨会所、京浜三江公所、廣東要明鶴同郷会を訪ね、それぞれの会の会長と役員らに新年のあいさつをするともに、華僑総会への引き続きの協力を要請した。

神奈川県知事・横浜市長に年頭の挨拶

1月5日午後、仕事始めのこの日、陳宜華会長は副会長らを伴い神奈川県庁を訪れ、黒岩佑治知事や副知事など県の関係部門の責任者に年頭の挨拶をした。この日、謝成發名誉会長、楊文恵副会長、朱銘江副会長、游群副会長、繆雪峰理事（山手中華学園理事長）、張岩松常務理事（山手中華学校校長）、李悦事務局長代理が同行した。一行は知事らと親しく懇談したほか、謝名誉会長からは年末カウントダウンの中華街の賑わいなどの様子が紹介された。

そして、1月7日午後、陳宜華会長は副会長らを伴い横浜市役所を訪れ、山中竹春市長ら市の関係者に新年の挨拶をした。この日、謝成發名誉会長、朱銘江副会長、游群副会長、繆雪峰理事（山手中華学園理事長）、張岩松常務理事（山手中華学校校長）、羅順英理事（熊貓幼稚園園長）、李悦事務局長代理が同行した。一行は市長らと親しく懇談したほか、陳会長から市に対し今後とも横浜華僑総会への支持をお願いした。



山中市長に新年のごあいさつ



黒岩知事に新年のごあいさつ

新春聯歓会盛大に開かる

2月1日、横浜華僑総会主催の2026年新春聯歓会が横浜中華街「ローズホテル横浜」にて盛大に行われた。午後五時、朱銘江副会長の司会で新春聯歓会は始まった。

中国駐日大使館趙宝鋼公使、陳巍公使参事官兼総領事、王宝鋒一等書記官兼領事らを初め、京浜地区の僑団代表多数の来賓が来場し、多くの僑胞と共に新年の到来を祝った。主催者を代表し、冒頭挨拶に立った陳宜華会長は、「新年を迎えるにあたり、こうして皆さまと一堂に会し共に馬年の到来を祝うことを嬉しく思うと共に、横浜華僑総会を代表して皆さまに新春の祝福を送る」と述べた。そして長きにわたり多くの方の協力により、横浜華僑総会は活力を持って前進することができたと語り、また過ぎ去った一年を振り返り、「横浜華僑総会は祖国の発展を目の当たりにしつつ、国慶節の一連の行事を成功理に行い、祖国に思いを馳せ、これからも僑団団結、相互扶助を進め、中日友好の未来に繋げて行こう」と述べた。



続いて趙宝鋼公使が挨拶し、皆さんとともに馬年の春節を祝うことを大変嬉しく思うと語り、中国駐日大使館を代表してところからの挨拶を申し上げ、合わせて皆さまが新しい年において健やかであり、事業が発展し、成功を収めることをお祈りすると語った。

また、趙公使はまもなく春節を迎えるが、中国駐日大使館は常に在日華僑華人のことを気にかかけ、これからも「外交は民のためにある」とのモットーを掲げ、皆さんに心を込めたサービスを提供し、僑胞の合法的權益を守り、「祖国は常に皆さんの力強い後ろ盾である」と強調した。

続いて、日本華僑華人聯合總會の陳隆進会長と、全日本華僑華人社団聯合会張書明会長が来賓を代表して相次いで祝辞を述べ、それぞれ横浜華僑總會の今まで果たして来た役割を高く評価した。



祝辞を述べる
日本華僑華人聯合總會
陳隆進会長



祝辞を述べる
全日本華僑華人社団聯合
張書明会長

この日、横浜華僑總會は古希を迎えた先輩華僑と 20 歳を迎えた新成人に大使館から僑胞に向け寄せられた春節を祝う福袋とお祝いの「紅包」を贈った。

続いて一般社団法人横浜華僑商公会の楊義誠会長が乾杯の音頭を取り、祝宴が始まった。

余興では横浜中華学校校友会国術団による獅子舞と中国舞踊を披露したほか、横浜華僑婦女會館を利用している華夏腰鼓舞隊による華やかな腰鼓舞いが披露された。

譚優矢副会長が聯歡会後半の司会を務め、お楽しみの大抽選会が行われ、当選番号が読み上げられるたびに、会場内は一喜一憂の歓声に包まれた。

余凱副会長が閉会の辞を述べ、新春聯歡会はお開きとなった。



壇上で祝福される新成人の方々



壇上で祝福される古希の方々



校友会 舞踏組



華夏腰鼓舞隊

过去一年见证了中国特色大国外交全面推进。2025年是全球变乱交织的一年。中国坚定站在历史正确的一边，站在人类进步的一边，维护以联合国为核心的国际体系和以国际法为基础的国际秩序，全面践行习近平主席提出的四个全球倡议，保和平、促合作、应变局、担道义，为变乱交织的世界注入稳定性和确定性。

同胞们，朋友们，2026年新年将至，驻日本大使馆将继续心系在日华侨华人冷暖，坚决践行“外交为民”宗旨，尽心尽力为大家提供优质服务，切实维护广大侨胞的合法权益，祖国始终是广大在日华侨华人的坚强后盾。也希望大家一如既往，继续做祖国建设支持者、民间友好的推动者、中国故事的传播者，为中国式现代化不断贡献智慧力量。

最后，祝愿在场各位及全体在日侨胞事业兴隆、身体健康、万事如意！马年大吉！谢谢大家！

新成人の声

新春聯歡会に出席した新成人（山手中華学校 72 届卒業生）に 20 歳の抱負や一言コメントを書いてもらいましたので、紹介します。

「（華僑は）珍しい立場なので、自分にしかできないつながりを大切に、よりパイプを大きくしたいです。」

「中日友好に貢献したい！」「新年快樂！」「元気に生きる」「自由に生きろ！！」

「若い世代として、華僑文化の魅力を日本国内だけでなく、世界に発信していきたいです。また、国術団をマレーシアの世界大会へ導きたいです」

「親の収入を超え、誰がみても『強い』と言われるような人間になりたいです。勉強はもちろん、多方面に羽を広げられるよう頑張りたいです。」

「中日友好！去年を超える！周りの人を大切に、感謝を忘れない」

「親に感謝する年にする」「抽選会でお花が当たってうれしかったです」

「言語を生かした仕事につけるよう頑張ります！世界を結ぶ！！」

「世界の色々なところをもっと見る！」「中国経済を研究する」

「バスケやります」「覚醒」「変身」「To be honest to me」「ありがとうございました。」

以上、ご協力いただいた方々：

渡邊莉莉花、何理慧、山本海結、司百合子、五嶋麗、陳韋佑、村岡繁樹、何忠剛、今村元沢、山下卓文、金城都、楊為和、張翼海、張哲源、柳田華、劉マイルズ、矢崎星弘、押遥大（敬称略）

教師・家長新春聯歡会 開催

教師家長新春聯歡会 1 月 17 日（土）横浜山手中華学校 家長会（譚優矢会長）はローズホテル横浜で新春聯歡会を開催した。開会の挨拶で譚会長は来賓としてお越しになった各僑団へ日頃の家長会と学校への協力に対して感謝の言葉と教職員と家長に対して今学年度を振り返りお互いに日頃の感謝を伝え合ったいと述べた。今回は 150 名が参加し、学年毎に分けられた各テーブルでは老師と家長が大いに盛り上がり有意義なひと時を過ごした。祝宴の結びに恒例の学年別の記念撮影と会場全体に大きく輪をつくり全員で昨年完成した家長会歌（神戸中華同文学校家長会との合同歌）と校歌を合唱して盛況の中散会となった。（家長会）



廣東同郷会新春聯歡会及び成人祝賀会開催

「陸煥鑫終身名譽會長獎學金」授与

1月25日、一般社団法人廣東同郷会の「2026年新春聯歡会及び成人祝賀会」が、横浜中華街のローズホテル横浜で盛大に開催された。

来賓に中華人民共和國駐日本国大使館の陳巍公使参事官兼総領事をはじめ、香港特区政府駐東京經濟貿易代表部、華僑団体の代表者などを迎え、会員とその家族ら総勢380名余りが参加し、尹星副会長がこの日の聯歡会の司会を担当した。

冒頭、会を代表して朱銘江会長が祝辞を述べ、昨年社団法人設立60周年を盛大に祝賀したことに触れ、多くの先輩華僑の献身的な努力で会の基礎が築かれことを振り返った。

そして、こうして各界の来賓を迎え、多くの広東同胞が一堂に会し、新年を祝う聯歡会が開かれたことを大変うれしく思うと述べ、合わせて駐日大使館のこれまでの配慮にも感謝した。

また、広東人には「務実、開放、包容（実務的で、開放的で、寛容である）」という三つの特徴があり、広東は中国南部に位置し、その経済規模はすでに韓国やロシアを上回っており、国際的にも上位に位置し、広東の発展ぶりは我々の誇りでもあると語った。そして在日の広東同胞が頻繁に故郷へ帰り、自身で故郷の新たな姿を実際に見聞し、体感することを願っていると述べた。そして、馬年を迎えるにあたり、皆が元気で前進し、それぞれの事業が繁栄し、努力により大きな財を勝ち取ることを祈念した。

来賓を代表し、中国大使館の陳巍公使参事官兼総領事は祝辞を述べた。その中で春節の到来に際し、中国駐日大使館を代表し、広東の同胞および在日華僑の皆様へ新年の祝意を伝えた。また、現在、国際社会は混乱が交錯しているが、中国は人類運命共同体の旗印を高く掲げ、目下の百年の変局に安定性をもたらしていると語り、合わせて台湾問題は中国の内政であり、国家統一の実現は中国人自身の問題であり、外部勢力の干渉は許されず、中国は必ず統一に向かい、必ず統一されると述べた。



続いて朱銘江会長は廣東同郷会を代表し、20歳を迎えた会員子弟の姜悠彩さんに祝賀の記念品を授与した。また、昨年陸煥鑫終身名譽會長が私財を投じて新たに設立された「陸煥鑫終身名譽會長獎學金基金」より、同郷会の会員で大学生の朱夏漣さんに授与された。

余興では同会の文芸サークルのメンバーにより広東の迎春歌曲「歡樂年年」の歌声を皮切りに多彩な歌舞音曲と、日本で活躍する音楽家孟繁杰さんらが素晴らしい歌と演奏のプログラムを披露した。最後に未永い友情を謳った歌手周華健の名曲「朋友」を皆で大合唱し、フィナーレを迎えた。

(廣東同郷会)

華文教育の「新たな100年」を目指して | 182 |

第54回教育懇親会を開催

2025年12月5日、本校は2025学年度第54回教育懇親会を成功裏に開催した。イベントは二部構成で、第一部は校内で多文化理解実践報告会を、第二部は横浜中華街の大珍楼で懇親会を実施した。第一部では、張岩松校長が教育懇親会の趣旨を説明し、羅順英副校長が学校の発展史とバイリンガル教育・多文化理解教育の実践成果を紹介した。小川寛充教諭は多文化理解教育実践報告を行い、本校と二つの小学校との長期交流の経験と成果を振り返った。会合後、出席者はキャンパスを視察し、本校の教育革新における最新成果について深く理解を深めた。

第二部懇親会には、日本政府教育部門、各学校代表及び教育関係者など70名以上が出席した。会場は満席となり、来賓と本校教職員が一堂に会し、華僑教育と日本教育の発展現状について深く意見交換した。横浜山手中華学園の繆雪峰理事長が最初に挨拶し、各界の長年にわたる支援に感謝するとともに、学校の建設と発展を推進するビジョンを表明した。続いて、神奈川県教育委員会教育局指導部長の市川幸春氏、横浜市教育委員会事務局教育次長の石川隆一氏、ならびに神奈川県私立中学校高等学校協会顧問・英理女子学院高等学校名誉校長の高木茂氏が相次いで発言し、本校が多文化理解教育及び教育の国際化において果たした貢献を高く評価した。



最後に、張岩松校長が閉会の辞を述べ、日本の教育界および友好校の皆さまからの長年にわたるご支援に心から感謝の意を表し、1月13日に開催される春節餃子宴への出席を誠実に招待し、来年の懇親会で再びお会いできることを楽しみにしていると述べた。

(山手中華学校)

冬令営でハルビンへ



学生の社会実践活動を充実させ、文化的認識を高めるため、本校は2025年12月25日から6日間、46名の学生が3名の引率教員と共に「氷の都」ハルビンでのウィンターキャンプを実施した。

都市の文脈を探求し 歴史の深みを体感

研修期間中、学生たちは中央大街とバロック大街を相次いで見学。ヨーロッパ風の建築が軒を連ねる百年の歴史を刻んだ街並みを散策し、ハルビンが持つ中西融合の都市景観と深い文化的基盤を体感した。

日本軍第七三一部隊犯罪資料館では、貴重な史料や歴史写真が痛ましい歴史をリアルに再現。厳粛な雰囲気の中で、生徒たちは深い愛国心と歴史的教訓を学び、民族への責任感と使命感を一層強めた。

自然に触れ 保護意識を高める

東北虎林園では、生徒たちは間近で東北虎を観察し、野生動物保護と自然環境保全への意識を高めた。

氷雪の魔法が冬の情熱を燃やす

ハルビンの氷雪の魅力に生徒たちは魅了された。「冰雪大世界」では透き通る氷彫刻作品に圧倒され、スキー場では自らスキーを体験。スピードと興奮の中で自己に挑戦し意志を鍛え、冰雪スポーツの独特な魅力を存分に味わった。

テクノロジー体験 未来の力を体感

「科大訊飛」の体験施設では、スマートロボット犬などの先端技術成果を体験。人工知能の発展成果を間近で感じ、科学技術革新への強い興味と探求心を刺激した。

東北の正月気分を味わう

研修活動には生活体験の要素も組み込まれ、農家の市場を訪れて正月用品を買い求める賑やかな光景を体験。自ら餡がけの柿を作り、本場の東北グルメを味わい、濃厚な日常の気配の中で人々の温かく豪快で素朴な気質を感じ取った。

歩く教室 成長の足跡

今回のハルビン冬期研修プログラムは内容豊富で形式も多様で、生徒たちは体験の中で視野を広げ能力を鍛え、見識を深め、今後の学習と生活に貴重な力を蓄えた。

(山手中華学校)

熊貓恒例の餅つき大会 開催



1月17日、パンダ幼稚園では園庭で恒例の餅つき大会が開催された。イベントは3つの年齢層に分けて順次行われた。最初に登場したのは彩虹組の子どもたち。先陣を切る彼らは全く臆することなく、やる気満々で小さな木杵を高く掲げて餅をつき、とても威風堂々とした様子だった。会場に響き渡る「がんばれ！」という声援が、みんなの協力する熱意をさらに高めた。続いて最年少の星星組。初めての体験でしたが、教員の指導のもと、子どもたちは皆笑顔で賑やかな雰囲気没頭していました。最後に登場したのは太陽組のお兄さんお姉さんたち。2年間の活動経験を生かし、特に真剣に餅をつきました。自らの手で作り上げた成果を前に、願いが叶ったかのような興奮と喜びが顔に溢れていました。この活動を通じて、子どもたちは日本の伝統文化をより深く理解し、労働の成果の尊さを実感するとともに、手作りの餅が格別に美味しく感じられることを実感した。

今回の活動は保護者理事の皆様のご多大なご支援を得て、卒園児の保護者の佐藤さんを特別に招き、餅作りの全工程を披露していただきました。子どもたちは笑い声をいっぱいにして帰宅し、幼稚園にこれほど頼もしい保護者後援団がいることを私たちは深く誇りに思います。活動の円滑な開催は皆様のご協力なしには成り立ちません。心より感謝申し上げます！

(熊貓幼稚園)

横浜華僑婦女会 新年会を開催



一般社団法人横浜華僑婦女会は2月1日、中華街大珍楼において新年会を開催した。出席された方は、来賓・会員・会館利用者合わせて総勢105名ほどであった。

林絵津子副会長、馬晶理事の司会によって開会が宣言され、黄巧玲会長が昨年来の会活動、日頃より寄せられたサポートに対する感謝と新年のお祝いを述べられた。来賓を代表して、日中友好神奈川県婦人連絡会共同代表の番場明子女士より祝辞を賜わり、横浜華僑総会副会長の朱銘江氏が乾杯の発声をされた。

おいしい料理をいただきながら、会はなごやかに進み、後半は婦女会館の利用団体が、腰鼓舞、ズンバ、テコンドーをそれぞれ披露され、おおいに盛り上がった。テコンドーの板割りの迫力に驚いた後は、婦女会合唱班による漢詩朗読と合唱が披露された。婦女会の手作りジャムを各テーブルでのジャンケン大会で取り合った後、全員で「我和我的祖国」を高らかに合唱し、終わりに張愛玲副会長が閉会の辞を述べて会はお開きとなった。

(横浜華僑婦女会)

広東要明鶴同郷会

新春聯歡懇親会を開催

広東要明鶴同郷会は2月5日、中華街萬珍楼において新春聯歡懇親会を開催した。当日は来賓、会員と家族合わせて300名以上の参加者が集まる盛会でした。

温耀立・莫梅婷両理事の司会によって会は始まり、最初に陸佐光会長が新年の挨拶を述べた。来賓を代表し、両横浜華僑総会会長にそれぞれ、祝辞と乾杯の発声をいただいた。長年華僑華人子女に中華文化を伝承して来られた両中華学校に寄付金が贈呈された。また、今年成人を迎える会員子女にはお祝いの品が贈られた。



あいさつする陸佐光会長

豪華な料理が次から次へと運ばれる中、横浜中華学校校友会国術団による舞踊が、各階において宴席に花を添えたのち、要明鶴同郷会の会員および会員子弟による獅子舞が各テーブルに新年の喜びを届けた。後半は毎年出席者が楽しみにしている抽選会が行われ、大きなお年玉が次々当たると、会場からひととき大きな歓声が上がった。最後に、譚優矢副会長が閉会の辞を述べて会はお開きとなった。

(広東要明鶴同郷会)

小紅 おゆうぎ会 開催

12月13日(土) 保育園小紅のおゆうぎ会が行われました。

2歳児クラスの子どもたちは、力いっぱい獅子舞を演じていました。最初はお獅子を見て抵抗を感じるお友だちもいましたが、みんなで取り組む中で獅子舞の楽しさに気づき、太鼓のリズムに合わせて演じるようになりました。自己紹介「你是谁」や大好きな歌「你好こんにちわ」は、緊張しながらも精いっぱい自分を表現していました。またオペレッタ「おしくらまんじゅう」では、おまんじゅうになりきって自分の役を楽しみクラスみんなが一つになって取り組む姿に感動しました。



1歳児のお友だちは、いつもとは異なる環境に戸惑う姿や涙する子もいましたが、保育士に支えられながら自分なりの表現で歌ったり踊ったりし頑張ろうとする姿に成長を感じました。

0歳児クラスは、舞台上で登場すると、その愛らしい姿に会場から歓声があがりました。大好きな保育者に見守られながら安心した表情で手遊び歌や、おゆうぎを楽しみました。

ご家族皆さまからのたくさんの拍手は、子どもたちにとって大きな励みになったことでしょう。ご来場の皆さまと共に成長した子どもたちの姿を共有することができ、心温まる一日となりました。

園長 于 美恵子

要明鶴帰郷ツアーに参加して

(2) 華僑総会理事 楊仕元

8月11日、朝食を済ませた後、禅城区にある佛山祖廟へと向かいました。境内のそこそこに見られる木彫、石彫、磚(煉瓦)彫など様々な彫刻について丁寧な説明を受けているうち、黄飛鴻記念館の広場で演武が始まるというので、急ぎ館内の廊下を通り抜けて中に入り、間もなく開演となりました。鍛錬を重ねた若者男女が一人ひとり登場して磨いてきた拳技、それに棒術、槍術、刀・剣術などを披露し、そのつど拍手喝采が沸きました。終わり近くのハイライト、武術の鍛錬の一環でもある獅子舞・龍舞が始まると、雰囲気はまた変わりました。平地での舞はもちろん、段差のついた大ぶりの盤檯の上、さらには高低差のある棒杭の上で獅子が見せる妙技は圧巻、山登りや谷底を覗くくさは手に汗握るものがありました。「採青」にも実は様々な技があるのですが、獅子が採る高く吊るされた「青」は「生菜和利市」(レタスと御祝儀)で、それには迎春、子宝、財を成すという意味が込められています。また、ここ広東では獅子舞を「広東醒獅」と言いますが、始まりは唐の時代の南海で、当初、「吉祥如意」の意味を込めて「瑞獅」と言われていました。しかし、広東語で瑞という字の音は「睡」と同じで、眠れる獅子(睡獅)では(特に十九世紀以降は叩かれっぱなし)ゲンがよくない、目覚めさせようというので「醒獅」になったというわけでした。

演武を見終わった後、只一枚しか残っていない黄飛鴻の写真が飾ってある資料室を覗くと、武術のさまざまな型を描いたイラストが展示されているのが目に入りました。黄飛鴻は自らの技を息子たちには伝えなかったそうですが、幸いにもそのうちの一人が実技はともかく、描画で幾つもの型を残したわけですね。コマ撮りの型をもとに黄飛鴻の技を復元しようと、現在、努力が重ねられているようだとの説明もありました。



佛山祖廟にて

祖廟をあとにし、その向かい側にある古い商店街「嶺南天地」を散策しました。いま風の店が並ぶ間に古い構えの建物も散見され、なかに「趨攏」という珍しい門構えを見つけ、ガイドの説明によると防犯のためのものだという。直径 15 センチほどの丸太が横向きに上から 15 本ほど（奇数本）並べられた引き戸になっていて、その後ろに扉がある。「趨攏」には銅鈴が仕掛けられていて、これが鳴ると人が来たことを知らせるようになっていて、屋内が暑い時には、内側の扉を開けて風通しを良くするという生活の知恵でもありませんか。

祖廟前からバスに乗り、南海区の西樵を通り抜けて高明に戻る途中、西樵山の頂上にある高さ 62 メートルの観音坐像をはるかに眺めることもできました。正午には、悦和庄私房菜の昼食と相成り、箸をよく伸ばした

ものを三品だけ挙げるとすれば、白切鶏は言うに及ばず、菜心炒め、貝柱の春雨蒸し、アワビの腰豆煮込み、といったところでしょうか。食後、西樵鎮にある「広東千古情景区」へ入りました。ここは 2024 年 2 月 10 日（春節）に開園したばかりの真新しい大型リゾート地で、古今東西さまざまな街並みを模した通り（風情街、市井街、紅豆街、ポヘミア街等）が何本もあり、老若男女、親子ともども楽しめる遊戯場、身をもって経験できる色々なテーマ館（バーチャル空間、幻影空間、恐怖研究院）、趣向の違った劇場やイベント会場が幾つもあって、毎日異なった出し物が上演されており、一日や二日滞在しても飽きることはなさそうに思われました。

われわれは「広東千古情」を鑑賞するため、千古情劇場に入場し、広東の六千年にわたる歴史の大河から幾つかの題材が上演された。

舞台は客席の前の一段と高くなった床の上だけでなく、客席やその頭上も含めた三次元空間がフルに使われ、舞台の進行は全てデジタルシステムを使い、AI（人工知能）によって制御するという最先端技術を駆使しています。わがツアーリーダーと奇しくも名が一字違いの黄巧霊が総監督を務めるこの大型ショーには、延安千古情、湖南千古情のように地方の名を冠した地方版があって、各地で人気を博しているそうです。「千古情景区」を後にしていったん高明へ戻り、その後高明区政府へ向かい、区政府による招待宴に与かりました。宴席では、唐区長からの歓迎のあいさつがされ、高明の近年の経済・社会の発展ぶりが紹介され、海外華僑に対する関心の深さ、交流の盛んなことなどにも言及された。陸団長は答礼のあいさつで、華僑の祖籍に対する関心と篤い思いを述べるとともに、旅行団に対する配慮と歓待に謝意を表明しました。私どもは同席した二人の政府職員とも親しく歓談することができました。山海の珍味が十数品も出て、あえて挙げるとすれば、蒸しエビ、フカヒレのカニ味噌煮、細切り蜂の巣（牛の胃）炒め、ネギ生姜・岩ガキの石鍋蒸し、パイヤ入り燕の巣などなど。舌鼓は鳴りっぱなしということでしょうか。八時半にはホテルに戻り、就寝。（つづく）

【訃告】

葛鴻池氏享年 88 歳（中華学校 34 届生葛仁敏さま、40 届生葛仁亮さまご尊父、喪主葛任娉芳さま）が逝去されました。告別式は 2 月 7 日に執り行われました。

謹んで御冥福を申しあげます。